

P79・C-3 宮本／西福寺

県指定有形文化財(建造物)

見学自由

中世の大型石塔

西福寺石造五輪塔・西福寺石造宝篋印塔

船橋駅周辺エリア

昭和42年に県の有形文化財に指定された「西福寺石造五輪塔」と「西福寺石造宝篋印塔」。この五輪塔、宝篋印塔は共に供養塔・墓塔として造られるようになった塔の一種です。

西福寺石造五輪塔は、銘文は刻まれていませんが、鎌倉時代後期頃の製作と推定されています(近年の研究では南北朝時代の製作とする説もある)。総高は295cmで安山岩製、中世の五輪塔のなかでは大型のものです。

宝篋印塔は中国から平安時代中期に伝来し、中に「宝篋印陀羅尼經」という経典を収めた塔であることからそう呼ばれています。西福寺石造宝篋印塔は安山岩製で、格狭間のある下の基礎から露盤までの高さは約154cm、こちらも中世のものとしては大型の塔です。

この両塔には御殿地(今の本町4丁目)から移したという伝承があり、移築の年代は船橋御殿が作られた江戸時代初期の可能性が高いといわれています。



▲上から空輪、風輪、火輪、水輪、地輪を表わす

◀ 石造五輪塔の隣にある「西福寺石造宝篋印塔」



所 船橋市宮本6-16-1 ☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

交 JR船橋駅から徒歩15分、京成電鉄 大神宮下駅から徒歩5分

指 昭和42年12月22日

P79・C-3 宮本／船橋大神宮 県指定有形民俗文化財 見学の際は要事前連絡

地元有志の寄付金で建てられた政府公認の私設灯台

とう みょう だい

灯明台

意富比神社（船橋大神宮）

は古い由緒を誇る船橋市域最大の神社で、古来、特に海運業者や漁師町の漁業者の信仰を集めてきました。かつて大神宮境内には常夜灯があり、船橋沿岸を航海する船もそれを目印にしていたのですが、慶応4年（1868）の戊辰戦争の際に、社殿と共に焼失してしまいました。その後、地元有志の寄付金によってつくられたのが、この灯明台です。明治13年（1880）に完成し、明治28年（1895）に廃止されるまで、政府公認の私設灯台でした。

灯明台は擬洋風建築で、1・2階は和風、3階の灯室は西洋式灯台のデザインを取り入れた六角形のつくりになっています。

もともと浅間神社のあった場所に建てられたので「浅間山灯明台」と呼ばれた



船橋駅周辺エリア



所 船橋市宮本5-2-1

☎ 047-436-2898

（船橋市教育委員会 文化課）

交 京成電鉄 大神宮下駅から徒歩3分

指 昭和37年5月1日

※平成18年2月「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」（水産庁主催）に認定



◀ 灯明台の2階

▼ 灯明台の1階



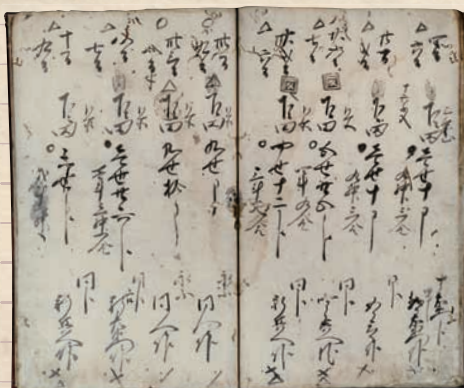
P78・B-3 本町／中央図書館 県指定有形文化財(古文書) 館内PCで閲覧可能

安土桃山時代の貴重な検地帳

てん しょう けん ち ちょう

天正検地帳

船橋駅周辺エリア



◀写真の検地帳は現在の市原市に属する山口村の検地帳

▼天正19年の検地帳の表紙



検地とは、領主が支配域の耕地や屋敷地などを測量し、土地の等級・面積・生産基準高と所有者を定めることです。検地によって村の範囲が確定し、総面積・村高が決められ、それに基づいて租税(年貢)が賦課されます。

戦国大名や織田信長も部分的な検地は行いましたが、全国的な規模で徹底された方式によって行われたのは、豊臣秀吉が天正10年(1582)から実施した『太閤検地』です。これによって租税の体系と農村の支配体制が確立したといえます。

船橋を含む両総地方の検地は、天正18年(1590)に関東に移封された徳川家康によって天正19年(1591)に着手され、文禄年間(1592～1596)から慶長年間(1596～1615)まで行われました。このうち、慶長3年(1598)までのものは広義の太閤検地に含まれます。

両総地方に残る安土桃山時代の検地帳のうち天正年間の原本は非常に少なく、県内の天正検地帳の原本17件(64冊)は、当時の土地の状況、農民や耕作の実態を知る重要な資料として、一括して県の文化財に指定されました。

所 船橋市本町4-38-28 ☎ 047-460-1311 (船橋市中央図書館)

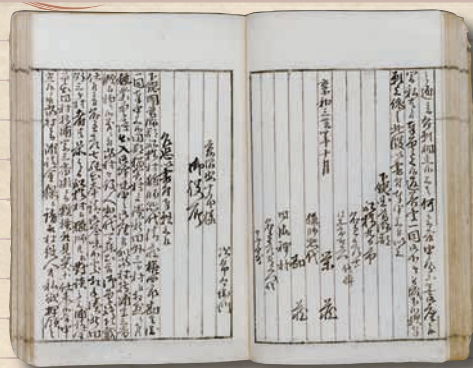
交 JR船橋駅、京成電鉄 京成船橋駅から徒歩5分 指 昭和57年4月6日

【地図は右ページ参照】

P78・B-3 本町／中央図書館 市指定有形文化財(古文書) 館内PCで閲覧可能

内湾漁業史に関する貴重な史料

ふな ばし うら ぎょ ぎょう かん けい こ もん じょ るい 船橋浦漁業関係古文書類

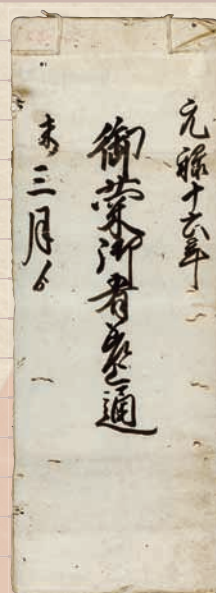


▲「船橋漁浦記事」



◀ 船橋市から羽田(大田区)までの東京湾とその周辺が描かれた「船橋・羽田間彩色浦絵図」

▶「御菜御肴差上通」



船橋駅周辺エリア

船橋浦は近世以後、内湾の代表的な漁業地帯でした。一般に江戸時代前期から漁業中心の生活をしていたところは“本浦(立浦)”と呼ばれますが、船橋は本浦で、さらに“御菜浦”でした。御菜浦とは将軍家の台所に魚介類を納める浦のことです。芝浦や品川浦などの御菜ハケ浦が有名でしたが、船橋浦も江戸時代前期には月に6度ずつ魚類を献上していました。船橋浦が御菜浦になったのは、徳川家康から仰せつかったためといわれています。そのため、船橋漁師は魚介献上の御用をつとめる代わりに、広大な漁場を占有することを許されていました。

その後、後発の半農漁村が活発に漁をし出す江戸中期になると、境界近くでは漁場争いが頻繁に起こるようになりました。争いの裁決は代官所や評定所で行われたため、多くの訴状や協定書が作成されました。これらの書類は最も重要であったことから大切に保管され、後世に伝えられました。



所 船橋市本町4-38-28 ☎ 047-460-1311 (船橋市中央図書館)

交 JR船橋駅、京成電鉄 京成船橋駅から徒歩5分 指 昭和47年12月21日

中央図書館

P78・B-3 本町／千葉銀行船橋支店 県指定史跡 見学自由

明治天皇最初のご来県時のご休憩の地

めい じ てん のう ふな ばし あん ざい しょ

明治天皇船橋行在所

船橋駅周辺エリア



◀千葉銀行船橋支店の前にある明治天皇船橋行在所の碑

千葉銀行船橋支店の入口前にある石碑は、明治天皇がご来県した際にこの地に立ち寄られたことを今に伝えています。

明治天皇は明治6年(1873)から明治45年(1912)までに計10回、のべ35日間にわたって千葉県に滞在されました。最初のご来県の明治6年4月29日に昼食をとられたのが、当時の船橋町九日市の旅館業桜屋、山口丈吉宅です。

同家は、明治天皇が千葉県で初めて民間に宿泊された家で、その後もしばしばご利用になり、通算で宿泊10回、昼食5回、小休息2回と千葉県では最も多く立ち寄られています。



▶山口丈吉宅の玉座(明治天皇御遺跡より)



所 船橋市本町3-3-4

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会文化課)

交 JR船橋駅から徒歩10分、京成電鉄 京成船橋駅から徒歩8分

指 昭和9年12月18日

P78・B-3 本町／覚王寺

市指定有形文化財(建造物)

見学自由

漁師町の信仰を集めた“龍神様”のお堂

難陀龍王堂

覚王寺は開創が室町時代後期といわれる真言宗豊山派に属する寺院です。江戸時代の寛文(1661～1673)、元禄(1688～1704)の頃から興隆したといわれ、10ヶ寺の末寺を有していました。

この覚王寺にある文化財が市指定有形文化財(建造物)の「難陀龍王堂」です。現在の堂は嘉永3年(1850)に再建されたもので、棟札が残されています。

龍王堂の本尊である難陀龍王は海上守護の神です。經典には「善く人心に応じ風雨を調え人をして歓喜せしむ」と説かれ、昔から“龍神様”として船橋の漁師町の人々の信仰を集めてきました。覚王寺の年中行事記によれば、毎年4月3日に海上保全・豊漁祈願のための難陀龍王御摩供が修され、護符が配られたといいます。

龍王堂は総檜造、形式は一間社流造で、堂全体を覆う彫刻が特徴的です。

正面には龍、北・東・西には中国の故事にちなんだ仙人や仙女が彫られています。これらの彫刻は彫りが深く、立体感があり、彫刻師の卓越した技量がうかがえます。



▲龍王堂の正面



▲北側の鯉にまたがる仙人像



◀正面に彫られた龍の彫刻

所 船橋市本町3-24-6

☎ 047-436-2898(船橋市教育委員会文化課)

📍 JR船橋駅から徒歩10分 指 平成7年3月28日



P78・A-3 海神／念仏堂 市指定有形文化財（彫刻） 見学の際は要事前連絡

端麗優美な定朝様の仏像

もく ぞう あ み だ によ らい りゅう ぞう

木造阿弥陀如来立像

船橋駅周辺エリア

海神の念仏堂内に安置されている「木造阿弥陀如来立像」。^{よせ ぎ づくり}寄木造で、^{たい ざ}像高70cm、^{こうはい ふながた}台座の高さ55cm、^{しょうちやうよう}光背は舟形で高さは110cmです。

作風は端麗優美な定朝様。平安時代末期前後の作とみられていて、美術的にも優れた仏像です。光背と蓮華座は江戸時代のものに変えられています。

念仏堂の縁起によると、この仏像は海神に存在した天摩山善光寺という古寺にあったもので、寺が火災にあい、小金（現在の松戸市）の東漸寺に預けたものを江戸神田の高麗屋佐次右衛門が請い受け、念仏堂に納めたといわれています。

■定朝様の仏像

定朝は平安期中期の仏師。平明で円満な日本化された仏像を完成させ、その作風は定朝様として後世の仏像造りの規範となった。現存する確実な作品は、京都宇治にある平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像のみ。



所 船橋市海神1-17-16 (念仏堂)

☎ 047-436-2898

(船橋市教育委員会文化課)

交 京成電鉄 海神駅から徒歩10分

指 昭和42年3月20日



◀ 仏像本体は平安時代末期前後の作とみられている

P79・C-3 本町／東照宮 市指定史跡 見学自由

徳川家康と船橋の関係を物語る史跡

ふなばしごてんあと 船橋御殿跡 附 東照宮

徳川家康が造ったとされる御殿の跡が船橋に残っています。家康は鷹狩りを好み、上総東金周辺でも2度狩りを催しました。そのため、東金には立派な御殿が造られ、道すがらにある船橋と中田(千葉市)にも、船橋御殿と御茶屋御殿が造営されました。船橋御殿は慶長19年(1614)前後に建てられ、土塁などの防御機能を備えた殿舎だったと考えられています。

慶長18年(1613)12月、家康は翌正月に上総東金で狩りをすると仰せ出し、正月7日に出発して東金に向かいました。船橋大神宮の諸由緒書によれば8日(7日とする書もある)に船橋御殿で小休止をしたとありますが、ほかにそれを裏付ける史料は知られていません。家康は翌年の元和元年(1615)11月25日にも、東金からのからの帰途に船橋御殿に宿泊しました。女房・警備の武士・足軽など、数十名を従えた一行だったとされています。

御殿の跡地といわれる場所は現在の本町4丁目の一角、民家の立ち並ぶなかにあり、そこには東照宮と稲荷神社の社殿が建てられています。船橋御殿跡と東照宮は、徳川家康と船橋の関係を物語る貴重な史跡です。

所 船橋市本町4-29-12 ☎047-436-2898 (船橋市教育委員会文化課)

交 JR船橋駅、京成電鉄 京成船橋駅から徒歩10分

指 昭和40年3月17日



船橋駅周辺エリア

船橋御殿跡にある東照宮。家康を祀って建てられた

P79・C-3 宮本／了源寺 市指定史跡 見学の際は要事前連絡

時を告げるかねつき堂があった

鐘楼堂跡 附 和時計 蜀山人筆

船橋駅周辺エリア

徳川幕府から「時の鐘」として公許され、明治4年(1871)まで船橋一帯に時を告げていた鐘楼堂跡が宮本の了源寺にあります。

本堂の右後ろには小さな丘があり、享保年間(1716～1736)に幕府が大砲射撃を行った際の鉄砲台の台座があったといわれています。大砲は東方の谷津・藤崎方面の松林、原野に向けて試射されたそうです。

大砲試射を廃止した際、ときの代官小宮山空之進のすすめで鐘楼堂(かねつき堂)を建て、船橋一帯に時を告げました。これは明治4年(1871)に廃止されるまで続きました。この「時」の基準となった和時計も了源寺で大切に保存されています。高さ48cm、幅16cmの真鍮製で、江戸時代中期(18世紀)の作といわれています。

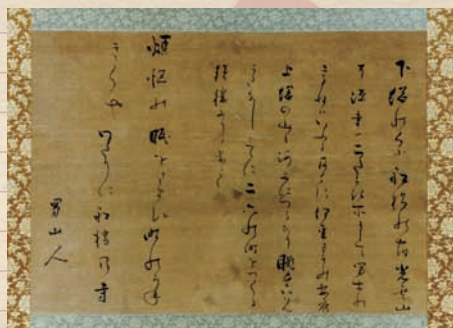
また、了源寺にはこの鐘の音を聞いて詠まれた、蜀山人大田南畝直筆の狂歌も保存されています。



鐘楼堂跡(現在の鐘楼堂は再建)



船橋の時の基準になった和時計



大田南畝直筆の狂歌



所 船橋市宮本7-7-1 ☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)
 京成電鉄 大神宮下駅から徒歩10分 指 昭和41年2月22日

P78・A-1 海神／飛ノ台史跡公園博物館 市指定史跡 見学自由(博物館内は有料)

考古学史上初めて「炉穴」が発見された遺跡

とびのだい つか 飛ノ台貝塚



公園として整備されている第3次調査地点

飛ノ台貝塚は、東西に約600m、南北に約60～200mに及び、76,000㎡(東京ドームの約1.6倍)の規模をもつ、縄文時代早期の遺跡です。

昭和7年(1932)に故杉原莊介博士によって発見され、「千葉縣東葛飾郡葛飾町大字西海神字飛ノ臺に存する」ため、「飛の臺貝塚」と名付けられました。昭和13年(1938)に行われた発掘調査では、「残灰を有する凹所群」が

見つかリ、「^{ろあな}炉穴」と命名されました。飛ノ台貝塚は考古学史上、炉穴が初めて発見された遺跡として有名です。その後、昭和52年(1977)から平成23年(2011)までに計11回の発掘調査が行われ、縄文時代早期の住居跡21軒、小竪穴4基、墓坑1基、炉穴430基以上、貝塚40ヶ所以上などの遺構が発見されています。

現在、飛ノ台貝塚の第3次調査地点は公園として整備されており、隣接する船橋市飛ノ台史跡公園博物館では、市内の遺跡から出土した遺物などが展示されています。

所 船橋市海神4-260-1ほか

☎ 047-495-1325(船橋市飛ノ台史跡公園博物館)

交 東武野田線 新船橋駅から徒歩8分、京成電鉄 海神駅から徒歩15分、東葉高速鉄道 東海神駅から徒歩12分

指 平成9年5月16日

▼第3次調査で見つかった平地の遺跡としては日本最古の合葬人骨



船橋駅周辺エリア



P78・B-3 湊町

国登録有形文化財(建造物)

見学の際は要事前連絡

かつての船着場の残る純和風旅館

玉川旅館(本館・第一別館・第二別館)

船橋駅周辺エリア

大正10年(1921)に料亭の営業を始めた「玉川旅館」。屋号の“玉川”は料亭を始めた小川家当主の父、小川紋蔵が船橋大神宮奉納相撲(P22)で名乗っていた四股名から付けられたものです。

本館は2階建てですが、高床式のため一見すると3階建てに見え、外観を楼閣風にまとめた料亭座敷です。

内部の各部屋には次の間が付いていて、かつては陸海軍の高級将校などが好んで使用したといわれています。

第一別館は平屋建てで第二別館と渡り廊下でつながっており、客室の床の間や欄間などには数奇屋風の意匠が見られます。

第二別館は2階建てで、2階の座敷7部屋のうち5部屋の間仕切りを取り払うと97畳敷きの大宴会場になります。1階部分は外観から高床式の基礎のように見えますが、意匠の凝った小部屋が迷路のように配られています。



▲本館。昭和16年(1941)建築の2階建て



▶第一別館。昭和3年(1928)建築の平屋建て



所 船橋市湊町2-6-25

☎ 047-436-2898

(船橋市教育委員会 文化課)

交 JR船橋駅または京成電鉄
京成船橋駅から徒歩10分

登 平成20年4月18日



▲第二別館。昭和8年(1933)建築の2階建て